

る？ 冷えから解放されたい！  
あなたもきつとやめられる！

禁煙の道、教えます

三月 “元気で長生き” 目指し 防ごう！ロコモティブシンドローム

### 「第六回熊本県医療人育成総合会議」の開催

副理事長 山本 哲郎

「熊本県医療人育成総合会議」の趣旨は、日本の医療需要がピークを迎えるとともに六十五歳以上の高齢者が総人口の三分の一を占めるようになる二〇三〇年に向けて、熊本における医療の能力をいかにして高めていくかを、医療界・医育界をあげて知恵を出し合っているというものです。

さて、医療人育成において実践能力を習得させる場は何といつても臨床実習です。近年、国家免許を取得した新医療人に対してこれまで以上に実務能力が求められるようになり、学生時代の必要実技実習項目も増加しています。また、医療技術系教育機関数の増加に伴い、熊本県において実施すべき臨床実習の総量も増大しています。そのような中で、附属病院を持たない教育機関においては、実習先の確保は毎年の重大な課題となっております。そこで、昨年度の「第六回熊本県医療人育成総合会議」では臨床実習を取り上げました。なお、最近の実習の場は、診療施設のほかに、在宅患者家庭や介護

施設さらには救急隊にまで及んでいることから、「臨床実習」という用語の代わりに「臨床実習」が使われることが増えてきているので、今回のテーマ名に関してもそれに倣うことといたしました。

実行委員：遠藤文夫（実行委員長）、上

田信之、宇佐美しおり、木原信市、興梠博次、児玉公道、迫田

芳生、辻野智二、齋田和孝、古川昇、松下修三、山本哲郎

事務局：永田正次、鶴山敏哉、家入隆一、山下泰弘

テーマ：「病院等における学生の臨床実習の現状と課題」

日時：平成二十七年十一月二十一日（土） 午後一時三十分～四時五十分

場所：熊本大学医学部キャンパス 医学教育図書棟第一講義室

司会：熊本大学医学部医学科長 安東由喜雄氏

熊本大学大学院生命科学研究所 教授 宇佐美しおり氏

講演一 「医療人育成における病院実習の位置づけ」

文部科学省高等教育局医学教育課 課長補佐 島居剛志氏

講演二 「熊本大学医学部医学科における臨床実習の現状と課題」

熊本大学大学院生命科学研究所 附属臨床医学教育研究センター 准教授 古川 昇氏

講演三 「看護教育における臨床実習の

現状と課題」

熊本保健科学大学保健科学部看護学科教授 竹熊千晶氏

講演四 「理学療法士教育における臨床実習の現状と課題」

九州看護福祉大学看護福祉学部リハビリテーション学科准教授 永崎孝之氏

講演五 「臨床実習病院における臨床実習の現状と課題」

熊本大学医学部附属病院看護部長 本 尚美氏

講演六 「地域病院における臨床実習受入に係る現状と課題」

国保水俣市立総合医療センター 病院事業管理者 坂本不出夫氏

総合討論（司会者は同上）

パネリストは講演講師六名 参加人数 約一〇名

その後十二月十八日に熊本日日新聞紙面一頁に亘って講演・協議の内容を報告しました。また、その報告紙面を「肥後医育振興会」ホームページに掲載し、自由に閲覧できるようにいたしました。

### 平成二十七年度（第二十回）肥後医育振興会医学研究助成を行う

平成二十七年度（第二十回）肥後医育振興会医学研究助成金授与候補者の選考が、平成二十七年八月三十一日に肥後医

育振興会助成選考委員会において行われました。

平成二十七年度の助成選考委員会委員は、それぞれの所属機関から推薦を受けた次の七名です。熊本大学大学院生命科学研究部からは伊藤隆明教授（基礎系）、興梠博次教授（臨床系）、大塚雅巳教授（薬学系）、大坪和明教授（保健学系）が、センター系からは熊本大学エイズ学研究センターの上野貴将准教授、熊本県医師会から江上寛理事（宇城総合病院院長）、関連病院からは熊本市民病院の津田弘之副院長で構成され、互選で伊藤隆明教授が委員長となつて、応募者ひとり一人について公正且つ厳正な選考が行われました。

医学研究助成金の応募者は、熊本大学大学院生命科学研究所及び医学教育部から五名、同医学部附属病院から四名、同発生医学研究所から一名、同エイズ学研究センターから一名、同国際先端医学研究機構から一名、熊本保健科学大学から一名の計十三名であり、その中から次の五名が授与候補者として選考されました。その後、理事長に推薦し、理事会において承認された後、それぞれに十五万円が贈呈されました。

なお、平成二十七年度から単に助成金を授与するのではなく、「肥後医育振興会学術奨励賞」という賞を付与し表彰されました。